

岩石園の利用について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 羽田, 久 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026062

岩石園の利用について

羽 田 久

1 はじめに

(1) 岩石園の概略

岩石園造成の計画をたててから今年で3年になる。その間、いろいろの文献を見たり、学校を見学して、その造成に当り今年の夏でようやく完成することができた。

わたしたちのところのような火山地帯では、安山岩、玄武岩、凝灰岩などは手近にあるので大きなものも手にはいりやすい。しかし、堆積岩・変成岩類や火成岩でも深成岩は手近に産出しないので、遠い所から採集するとなると、なかなか大きなものを持ち帰れない。実際に並べてみると小さなものは屋外展示用として十分でないものもある。そこで、今後大きな岩石と変えていきたいと思っている。

図1に示すように岩石園の正面は円形に型どり、その周囲は、校舎を建てるときに掘出された安山岩の岩塊を利用して庭園式に区画した。岩石名は、色分けで番号で示し、青色は堆積岩、桃色は火成岩とした。

岩石園の背面は、図2に示すように地層のでき方、火山のようす、温泉のでき方などを図示し、その前に標本を堆積岩と火成岩に分けて展示した。標本は同種類のものをできるだけ多く並べ、例えば、石灰岩については、産地の違うものをいろいろ展示することによって、岩石を識別するにはただ色や形だけでは判断できないということを児童に認識させることをねらった。

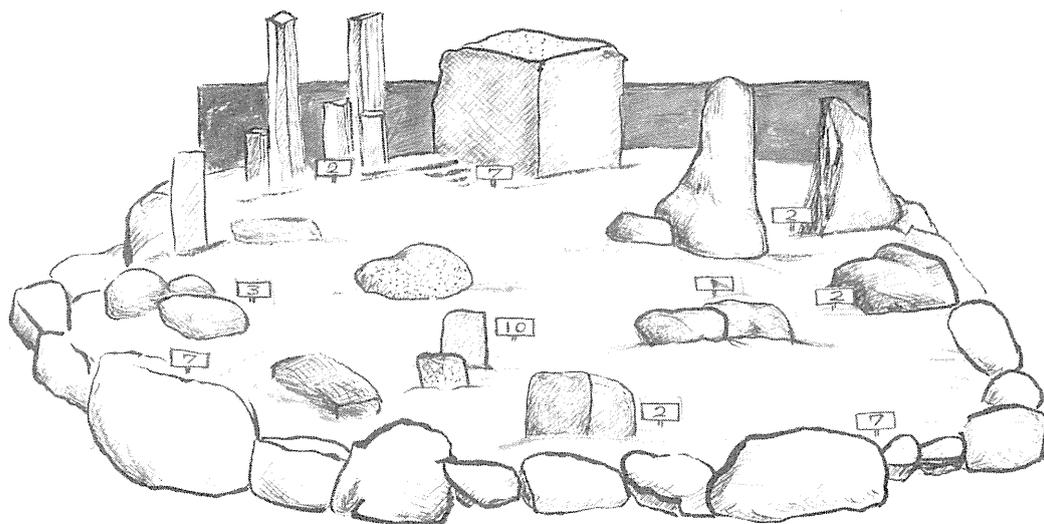


図1 岩石園正面図 (幅8 m)

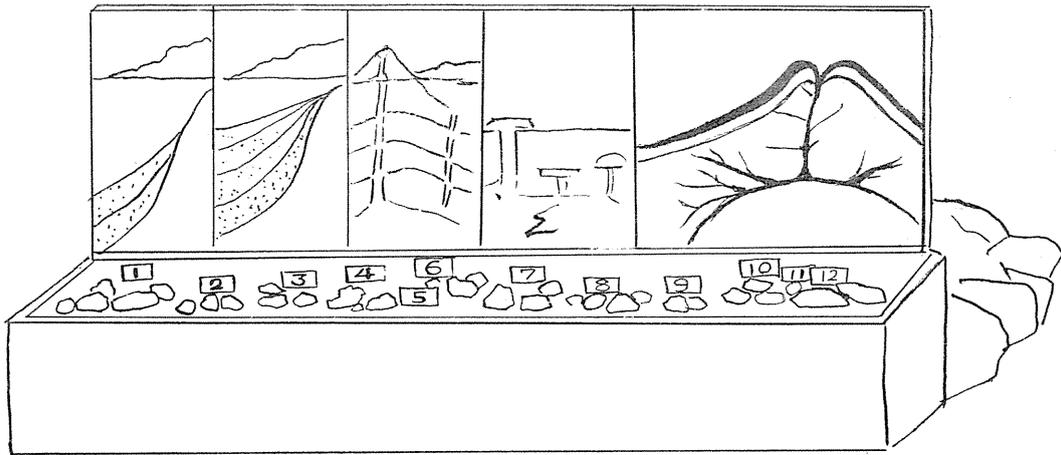


図2 岩石園背面図

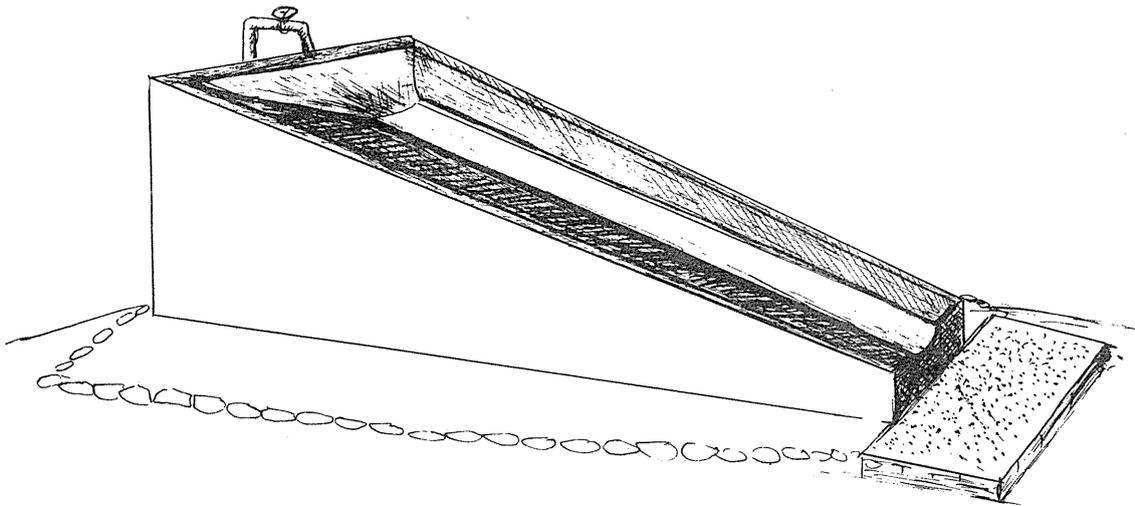


図3 “川のはたらき”実験設備（左端の高さ：120cm）

(2) 付帯設備

現在図3のように4年生の教材，川のはたらきを実験する設備と砂場（浸食を実験）を作ったが，さらに碎石場の施設を計画し，目下作製中である。

(3) 岩石園作成にあたっての留意点

岩石園を作るにあたっては，小学校に望ましい岩石園は，どのように作ったらよいか？ について先生方といろいろ話し合いを重ね，わたしたちなりに，次のようなことを基本にその作製にとり組んだのである。

- ① 単純なもの …… 岩石の種類をあまり多くしない。教科書に出てくる程度にとどめる。
- ② はっきりしたもの …… 粒子・結晶のよくわかるもの。
- ③ 自分の土地にあるもの …… 生活している場所の岩石を中心にする。

なお，標本展示台では，一部中学校で新しく学習する岩石に⊕印をつけて，多少将来への学習の発展を暗示してある。

中学校とちがって、学級担任制である小学校で一番要求されることは、誰にでもすぐその場で利用できる岩石園ということである。しかし、いざ作ってみるとなかなか考えた通りにできず、平凡なものになったのではないかと反省している。

教室で観察する標本は、屋外展示用岩石採集の際、同種の岩石小片を多数持ちかえり、児童1人1人が十分に利用できるよう標本箱におさめてある。必要に応じて、割ってみる実験用サンプルも十分に採集してある。

2 どのように利用していくか

岩石園の作られるまでは、子供たちの拾ってきた石や、学校にある石を見て、教科書を中心にして授業を進めることが多かったが、岩石園作製・岩石採集と同時に標本をたくさん集めたので、今までよりさらに前進した学習ができるようになった。

岩石園の利用のしかたにはいろいろあると思われる。まず、導入のとき、学習の展開の中に、整理の段階に、その他、反復利用、或は実験の場として……。その他、いろいろあると思われるが、昨年反省などから、一つの方法を述べたいと思う。

① 岩石の勉強にはいと休み時間、放課後など、急に岩石園のまわりに集まるようになるので、導入の段階で十分岩石園を利用する必要があると思う。ただ興味本位に終わらないよう指導することが大切である。

② 数種の教科書を見ても、たいせき岩は、でい岩、さ岩、れき岩、ぎょうかい岩、せっかい岩などである（口絵…見る）と言っている。写真を見ただけでは特徴などをつかむことは、明らかに困難なことだと思うので、導入の段階で、現物を見る、さわる、これがそうか……と、自分自身でたしかめ、はじめて納得いくのではないだろうか。

そこで、まず、導入段階で岩石園に行き（30分程度）種類とか、形とか、色とかを話し合ったり、番号を見て、岩石名をあてるなどして、岩石についての学習が自然に楽しくできるようにしている。このようにすると、あとで標本を中心に進める教室の授業が、いきいきとして良い効果を取めているように思われる。

③ 火山と火成岩についても、導入において岩石園を利用している。5年生との違いは、火成岩のつくり、性質、特徴など、より高度の観察が必要になってくるので、標本にしても、結晶のはっきりしたものがよいことは言うまでもない。その他、碎石場を作り、子どもたちが、いつでも、自由に碎石できるように備えてやることもまた、大切なことだと思う。

3 おわりに

小学校の岩石園であるという立場から、教師の参考にもなり、子どもにもよくわかる単純な構成に主眼をおいて作成したつもりではあるが、まだ、多くの不備な点も残されていると思う。岩石園を利用して授業と研究を行なった多くの先生方の反省や諸兄の御指導を頂いて、今後この岩石園を一層効果的な立派なものに改善していきたいと思っている。

（駿東郡長泉小学校）